

2015 年度（対象年度：2014） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
101	建学の精神は、適切に設定されていますか。	①建学の精神は、本学が目指すべき方向性や育成する人間像を明らかにしていますか。	A	A
		②建学の精神は、教育、研究、社会貢献の面で具現化されていますか。【※どのように】	A	
102	建学の精神が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されていますか。	③明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。	B	B
		④構成員（教職員および学生）に対し周知し、十分理解されていますか。【※どのように】	B	
		⑤社会に対し、公表していますか。【※どのように】	A	
103	建学の精神の表記の適切性について、定期的に検証を行っていますか。	⑥建学の精神の表記の適切性について、検証しましたか。【※どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。
101 2012 年度に「建学の精神」に関する説明を改め、本学が育成する人間像を明らかにしている。建学の精神を具現化するため、建学の精神にもとづいた「学生支援の方針」等、部門毎の基本方針を定めている。主な取り組み例として、必修科目「仏教の思想」を開講している。また、降誕会や報恩講等を公式行事として学年暦に明記し、行事参加の休講としている。
102 現在の「建学の精神」の記述に齟齬はないが、「5長の基本方針」や「教育にかかる基本方針」等、一部の明示媒体で2012年度以前の表現が残っているため、今後、検討が必要である。 「建学の精神」を学生手帳や出講手帳に明記するとともに、「建学の精神」冊子を「仏教の思想」補助教材として使用し周知しており、一定の理解がなされている。また、「建学の精神」「ブランドコンセプト」等に対する理解について混乱が生じているとの指摘を受け、2015年度に配付する学生手帳に記載する「建学の精神」「ブランドコンセプト」の説明に関する表現をあらためた。社会に対しては大学ホームページで公表している。
103 2014年度第3回宗教委員会において、建学の精神の「表現」の適切性や「普及・醸成」に関して検討した結果、まずは、2015年4月の新入生への配付に向けて、同委員会のもとに編集委員会を組織し、「建学の精神」冊子の全面改訂を行った。
〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。
・前年度努力課題となった評価項目102に対する改善計画では、2013年度中に「建学の精神」「ブランドコンセプト」などに対する認識について、学生部や学長室が実施している調査結果等をもとに実態について把握する。（～2014年3月末）となっていたが、現状説明では確認できないので、改善されていないと判断せざるを得ない。【努力課題】

・建学の精神の適切性についての定期的な検証や、建学の精神の周知方策等について、毎年、宗教委員会でどのような総括を行っているのか示していただきたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・「建学の精神」冊子の全面改訂（2015年度配付）を実施した。次年度、資料ページの改訂や外国語版の作成をおこなう。
- ・学生手帳における「建学の精神」「ブランドコンセプト」の説明表現の見直しを実施した。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・大学ホームページでは、「建学の精神」の簡単な説明のみにとどまっており、2015年度にリニューアルする。
- ・建学の精神の定期的な検証のため、宗教局の学生と協力し、建学の精神や宗教に関するアンケートを実施する。
- ・留学生に対する建学の精神の周知が十分にできていないため、外国語版の「建学の精神」冊子を作成する。
- ・「教育にかかる基本方針」や、「学部・研究科の教育理念・目的」を検証し、必要に応じて修正する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
102	学生手帳：建学の精神、校章とロゴマーク、ブランドスローガン） ：真実の生き方を求めて(P158～P161)
102	顕真週間アンケート（速報版）
102	龍大はじめの一步 龍谷大学「建学の精神」（新入生配付冊子）
102	出講手帳「教育にかかる基本方針」「学部・大学院研究科の教育理念・目的
102	ホームページ http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html （電子データなし） http://www.ryukoku.ac.jp/shukyo/index.php （電子データなし）

Ⅱ. 評価結果

総評	
現在の「建学の精神」の記述に齟齬はないが、「5長の基本方針」や「教育にかかる基本方針」等、一部の明示媒体で2012年度以前の表現が残っている。 「建学の精神」「ブランドコンセプト」等に対する理解について混乱が生じているとの指摘を受け、2015年度の学生手帳に記載する「建学の精神」「ブランドコンセプト」の説明に関する表現をあらためた。 宗教委員会において、建学の精神の「表現」の適切性や「普及・醸成」に関して検討した結果、まずは、2015年4月の新入生への配付に向けて、同委員会のもとに編集委員会を組織し、「建学の精神」冊子の全面改訂を行った。 留学生に対する建学の精神の周知が十分にできていないため、外国語版の「建学の精神」冊子を作成しようとしている。	
伸長すべき点（長所）	《箇条書き》
・学生手帳における「建学の精神」「ブランドコンセプト」の説明表現の見直しを実施した。課題の改善報告書に基づき、学生に対する周知活動を勧めていただきたい。 ・宗教委員会において、建学の精神の「表現」の適切性や「普及・醸成」に関して検討した結果、「建学の精神」冊子の全面改訂を行った。	
改善すべき点	《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「5長の基本方針」や「教育にかかる基本方針」等、一部の明示媒体で2012年度以前の表現が残っている。早急に改善されたい。【努力課題】 ・外国語版の「建学の精神」冊子の作成に期待する。【留意点】	
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要	

2015 年度（対象年度：2014） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
101	教育にかかる基本方針は設定されていますか。	①教育にかかる基本方針は建学の精神が反映されたものになっていますか。	B	A
		②育成する人間像は、明確ですか。	A	
102	教育にかかる基本方針は構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されていますか。	③明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。	A	B
		④構成員(教職員および学生)に対し、周知し十分理解されていますか。【※どのように】	B	
		⑤社会に対し、公表していますか。【※どのように】	A	
103	教育にかかる基本方針の適切性について定期的に検証していますか。	⑥教育にかかる基本方針を検証しましたか。【※どのように】	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。 ① 「龍谷大学の教育にかかる基本方針」を設定し、履修要項等に明示している。ただし、②に記述しているように「龍谷大学の教育にかかる基本方針」は、第5次長期計画で策定した大学の教育にかかる基本方針（2010年度）をそのまま当てはめているだけであり、厳密に言えば、これまでの建学の精神に関する議論を踏まえ2012年度に整備された「龍谷大学の建学の精神」を反映しているとは言い難い。また、「龍谷大学の教育にかかる基本方針」と各学部理念・目的（2008年度）、3つの方針（2009年度）との整合性も確認されているとはいえない。 ② 第5次長期計画で策定した大学の教育にかかる基本方針を本学の全学的な教育理念・目的と位置付け、「建学の精神に基づいて、『平等』、『自立』、『内省』、『感謝』、『平和』の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、『広い学識』と『進取の精神』を持って人類社会に貢献する人間を育成する」ことを履修要項等に明示している。ただし、①で記述した問題がある。 ③ 教育にかかる基本方針については、2013年度から履修要項等の各媒体に明示する原稿の統一化を図った。但し、本学ホームページ（以下、HP）に記載されている一部の文言に整合性のない表現が用いられていたため、2014年度に適切な表現に改めた。 具体的には、HPの「龍谷大学における教育に係る理念・目的・方針の体系図」において、「教育プログラム→共生の精神を備え、社会の幅広い分野で貢献しう有為な人間を輩出する」という文言を「教育プログラム→『真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする』ことのできる人間を育成する」という本学の育成する人間像の文言に改めた。 ④ 上記③のとおり構成員に対し周知を行っているが、理解状況に関する調査・検証はできていない。また、理解度以前に周知状況の測定ができていないことから、段階を経た対応が必要である。 ⑤ 教育にかかる基本方針について、大学ホームページ等を通じて広く公表している。 ⑥ 教育にかかる基本方針について、自己点検・評価制度により検証している。

【改善すべき点の確認】 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。 ・教育にかかる基本方針の周知状況及び理解状況の調査・検証方法について検討する。 ・本学ホームページに記載されている「龍谷大学における教育に係る理念・目的・方針の体系図」について、適切な表現に改める。 ・教育に係る基本方針について、構成員（教職員および学生）に対し、周知し十分理解されているか否かを判定する手法の開発が望まれる。【留意点】 ・建学の精神や教育にかかる基本方針等の明示の齟齬については、努力課題とされていたこともあり、2013 年度から履修要項等の各媒体に明示する文言の統一化を図っているが、本学ホームページに記載されている「龍谷大学における教育に係る理念・目的・方針の体系図」の下部の文言（「共生の精神を備え、社会の幅広い分野で貢献しうる有為な人間を輩出する」）に依然として齟齬が見られる。この内容が示されているのはこの図のみであり、内容的には人間育成目標となっている。本学の人間育成目標は「龍谷大学の建学の精神」に示される『真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする』ことのできる人間を育成する」であるので、早急に修正していただきたい。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。 ・2011 年度に構築した自己点検・評価制度により、大学の理念・目的について、定期的に検証を行うことが可能となったことにより、整合性のない表現を改めることが可能となっている。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。 ・「龍谷大学の教育にかかる基本方針」は、第 5 次長期計画で策定した大学の教育にかかる基本方針（2010 年度）をそのまま当てはめているだけであり、厳密に言えば、これまでの建学の精神に関する議論を踏まえ 2012 年度に整備された「龍谷大学の建学の精神」を反映しているとはいえない。また、「龍谷大学の教育にかかる基本方針」と各学部・理念・目的（2008 年度）、3 つの方針（2009 年度）との整合性も確認されているとはいえない。 ・教育にかかる基本方針の周知状況の把握
--

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
101,102,103	本学ホームページ＜抜粋＞（「教育理念・目的」と「3 つの方針」）（電子データなし）

Ⅱ. 評価結果

総評	
現状の「龍谷大学の教育にかかる基本方針」は、「研究にかかる基本方針」「社会貢献にかかる基本方針」とともに、2010年度に第5次長期計画で策定した時限的な方針である。2012年度に「龍谷大学の建学の精神」が整備されたことに鑑みると、時系列上、順序の逆転が生じてしまっており、これらの整合性について検証し、長期計画の上位概念となる基本方針を策定することが求められる。また、併せて「大学運営にかかる基本方針」の策定についても検討いただきたい。策定後には、改めて基本方針と各学部理念・目的（2008年度）、3つの方針（2009年度）等の各組織の定める方針との整合性を検証していただきたい。 教育にかかる基本方針について、大学ホームページ等を通じて広く公表している。	
伸長すべき点（長所）	《箇条書き》
改善すべき点	《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「建学の精神」と整合性のとれた基本方針を策定し、関連する各方針との検証を行う必要がある。【努力課題】	
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要	